

## 英語のコミュニケーション能力強化を

—足利市教育委員会、足利市英語教育推進会議で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今朝の「開倫塾の時間」では、英語教育についてお話をさせていただきます。私の住む足利市教育委員会では「足利市英語教育推進プロジェクト会議」を去年の12月に立ち上げ、1か月か2か月置きぐらいに会議を開いています。この会議は、新しい時代に即した英語教育を足利市でも行おう、できればこれからの時代を先取りするような取り組みをしようではないかというお考えで設けられたものであると思います。私もメンバー、委員の1人に加えさせていただきましたので、今日はその会議のお話をさせていただきます。
3. 中学校の学習指導要領には、外国語の目標と英語のコミュニケーション能力、運用能力に関する目標が出ています。そこで会議では、それらの目標を達成するために足利市では英語教育をどのように行ったらよいか、特に読む力・聞く力・話す力・書く力をどのように向上させたらよいかについて皆さんと議論し、提言をまとめる作業をしています。また、学習意欲の向上についても議論を深めています。
4. 基本的には、英語で読む力・聞く力・話す力・書く力を向上させることが一番大事であるという認識です。しかし、その手前で、①日本語でものごとを論理的に考える力、論理的思考能力を高めることが大事です。英語はことばですので、②日本語での言語活動を充実させることが大事であり、また、英語はコミュニケーションの手段ですので、③日本語でのコミュニケーション能力をつけることが大事であると思います。つまり、日本語でのこの3つが前提となっはじめて、英語の読む力・聞く力・話す力・書く力も身に付くのではないかということです。
5. 私も同じ意見で、日本語の勉強は大事だと思えます。その内容として、①日本語で論理的に考える論理的思考能力を養うこと、②日本語での言語活動を充実させること、③日本語でのコミュニケーション能力を身に付けることが大事です。つまり、日本語の勉強をたくさんして、それと同時に英語によるコミュニケーション能力を高めることが大事だと思えます。
6. 英語では、読む力・聞く力・話す力・書く力の4つの技能を組み合わせた活動として、スピーチ、プレゼンテーション、ディベートというところまでいければ理想です。そこで、日本語で論理的思考能力を養い、言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力を身に付ける努力、取り組みをし、

同時に英語も同じような形でスピーチ、プレゼンテーション、ディベートが可能になる4つの技能、読む力・聞く力・話す力・書く力を身に付ける努力、取り組みもすべきだと私は思います。

7. また、英語を実際に使用している現場と申しますか、使っている場所でそれらの能力が身に付けばさらによいのではないかという意見もたくさん出ています。例えば、韓国に「韓国英語村」というところがあるという紹介がありました。紹介して下さったのは、会議のメンバーの一人でいらっしゃる西武文理大学附属小学校の教頭先生の小林正三先生です。小林先生からは、「韓国英語村では生きた英語力を育むために4泊5日で英語を勉強している。韓国では英語が小学校3年生から正規科目として導入されていて、高校卒業時の平均的な英語能力はTOEICで700点台といわれている。日本ではTOEICで700点を取るのには大学生でも難しく、大学生の目標は600点ともいわれている。それなのに、韓国では高校卒業時の平均で700点も取る。英語が公用語として導入されていない国の中では、韓国はまさに英語教育の先進国である。その韓国で、高い海外留学費用を支払わなくてもほぼ同じような効果を出そうということで、英語パジェというか英語村というものが作られた。ここでは多くの外国人の講師が生活をしているので、米国への留学と同じ環境、つまり24時間英語漬けの生活が叶えられる。公立の施設なので、安全第一で小学生でも一人で生活ができる。日本からも多くの留学生が来ている」という旨の御報告がありました。
8. 韓国英語村では、イギリスの村をモデルにしたコンサートホールやレストランなどの商業施設が実際に営業活動をしていて、140名の外国人スタッフが生活をしています。また、実物大の警察署や郵便局、銀行などもあって、臨場感たっぷりの中で授業が行われます。日中は講師の先生が、夜は寮長先生がいつもそばにいてサポートして下さいますので、小学生でも一人で生活でき、英語教育の先進国である韓国らしく、楽しくしかもしっかりと24時間英語漬けの生活ができるということです。このように、英語オンリーの生活・経験をして、遊びながら英語教育をするというコンセプトでできている施設が、韓国にはいくつかあるようです。また、使っていない学校などを再活用した同様の施設が30箇所ぐらいあると聞きました。
9. 日本にも、栃木県内にも、また、足利市内にも空いている学校がたくさんありますので、そういう今使用していない空いている学校の校舎などを使って韓国英語村の少しコンパクト版と申しますか、簡単なものを作り、その施設に希望する小学生、中学生、高校生、大学生、短大生、専門学校生、大学院生、それに加えて社会人も1年に何回か、できれば1学期に何回か行かせて、英語の実際の運用能力をつけるのも大事ではないかなと思います。
10. 今日は、足利市の教育委員会が立ち上げた「英語教育推進プロジェクト会議」の様子を少しお話しさせていただきました。ぜひ足利市以外の各市や町でも英語教育をしっかりと行っていただき、将来英語で困らない小学生、中学生、高校生、大学生をつくりたいと思います。社会人も今からでも遅くありませんから、英語を積極的に学び、英語によるコミュニケーション能力を身に付けることが大事と考えます。

— 2013年11月7日校正、追記、林明夫 —